

PHILIPPINES SURVEY CAMP

2018



18. August~ 8. September

REPORTED BY FIWC-KYUSHU

Contents

- 1 はじめに
- 2 FIWC 九州とは
- 3 スケジュール
- 4 ワーク地決定
- 5 2019年度春ワーク内容
- 6 Evaluation
- 7 イベント
- 8 写真特集
- 9 感想



1. はじめに

みなさんはフィリピンについてどのようなイメージをお持ちですか。多くの方は、セブやマニラといったきれいで賑やかな観光地をイメージすると思います。しかし、実際のフィリピンはそんな観光地の何キロか先にはスラムが広がっていたりと、とても貧富の差が大きい国です。そんなフィリピンの農村部で私たち fiwc 九州フィリピンキャンプは共同生活、共同労働を理念に掲げ、活動しています。フィリピンでは何気ない生活の中にも、多くの村では行政の支援が不十分であるため、様々な問題が起きています。その問題に対して、まず私たちが実際に訪問し、村のニーズに身をもって触れてきました。その上で村人の生活が少しでも向上するためにワークを行う必要があると考えています。

ワークを行う上でキャンパー1人1人が村人との交流を深め、私たちの行う活動を理解してもらいます。そして、村人に寄り添いながら信頼関係を築き上げ、村人として一か月生活を共にします。単に村人の生活をよりよくするためだけに行うワークではなく、ワークを通して村人との交流を深め、共に**笑顔**でいられることを目指します。

あなたという色で、フィリピンキャンプというキャンパスを笑顔で染めてみませんか。

2018年度フィリピンキャンプリーダー 橋本尚樹

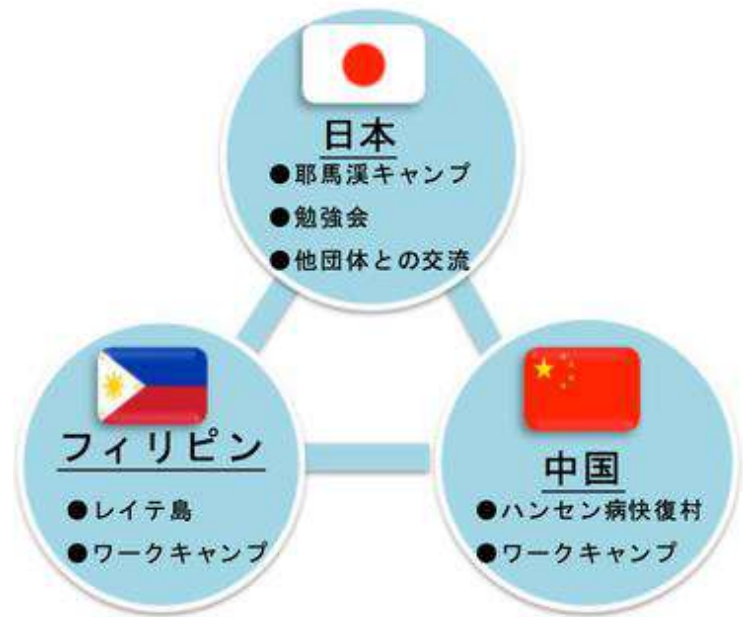
2. FIWC とは

Friends

International

Work

Camp



FIWC 九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

<国際活動>

○中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

○フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

○ネパールキャンプ

震災支援として、昨年度発足。震災復興の整備を行う。

<国内活動>

○耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

○FP (FIWC Party)

月1回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会&交流会。

○その他

学祭、まんば(Monthly Party)、総会、国内合宿 など

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！

3. スケジュール

事前ミーティング

- 第一回:5/31(木) 19:00~@びおとーふ
- 第二回:6/15(金) 19:00~@びおとーふ
- 第三回:6/22(金) 19:00~@ブレスカンパニー
- 第四回:6/30(土) 13:00~@西南学院大学
- 第五回:7/11(水) 19:00~@びおとーふ
- 第六回:7/20(金) 19:00~@ブレスカンパニー
- 第七回:8/3(金) 19:00~@びおとーふ
- 第八回:8/15(水) 18:00~@びおとーふ

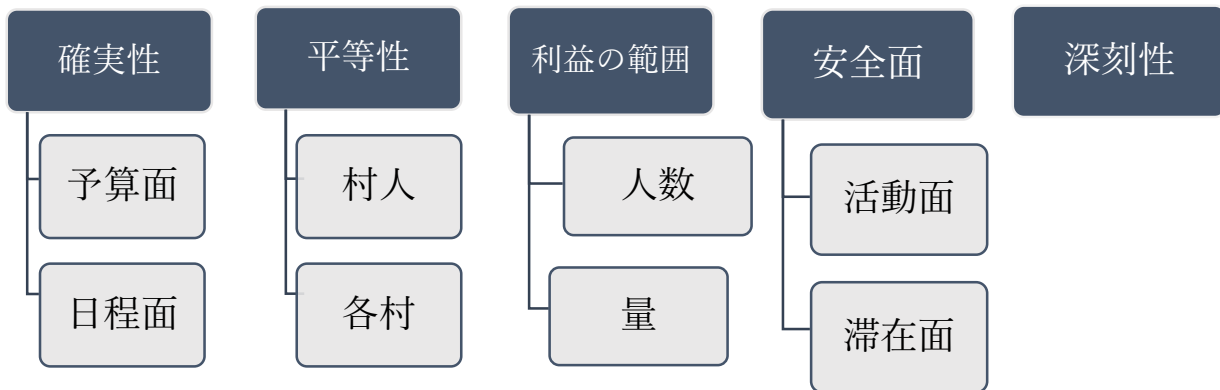
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19
		第 8 回 MTG			出国	Gimarco 到着 Evaluation
8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26
Evaluation	Survey (Sta.Rosa) Market	Survey (Sta.Rosa, Tugas)	Survey (Tugas) Work 確認 第 1 回 JP	Market Mayor 訪問 (Butason I)	Holiday	Survey (Manlawaan)
8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2
Survey (Tugas) Market	Survey (Sta.Rosa)	キャンプ地 決定	FI 関東訪問 Market Sta.Rosa へ移 動	Elementary School 訪問	Market Japanese Festival	GAM
9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9
Market HighSchool 訪問	Work 確認 第 2 回 JP	Mayor 訪問	Farewell Party	Sta.Rosa 出発 Cebu 観光	事後 MTG 帰国	

4. ワーク地決定

まず、来年の春に行うプロジェクトを決めるために survey を行った。

survey とは、我々フィリピンキャンプが次のプロジェクト (来年の春に行うプロジェクト)を決めるために行っている事前調査のことである。Survey は夏の下見キャンプのなかで最も大切なものの一つであり、実際に貧困村を目でみて、実際に村人から話を聞くということに重きを置いている。

なお今回は、「確実性」「深刻性」「利益の範囲」「平等性」「安全面」、の5つを中心の軸に置き、更に枝分し、プロジェクト決定を行った。



今回の Survey 内容

- 1, 前回のキャンプ地 (ヒマルコ村) の村役人と現地のエンジニアさん (LokLok さん) から問題を抱えている集落を紹介してもらう。
- 2, BRGY STA.ROSA (サンタローサ村) での Survey
- 3, BRGY TUGUS (トゥーガス村) での Survey
- 4, 市長への表敬訪問 プロジェクトへの協力を要請
- 5, BRGY MANLAWAAN (マンラワアン村) での Survey
- 6, 2019 年度ワーク地決定 MTG

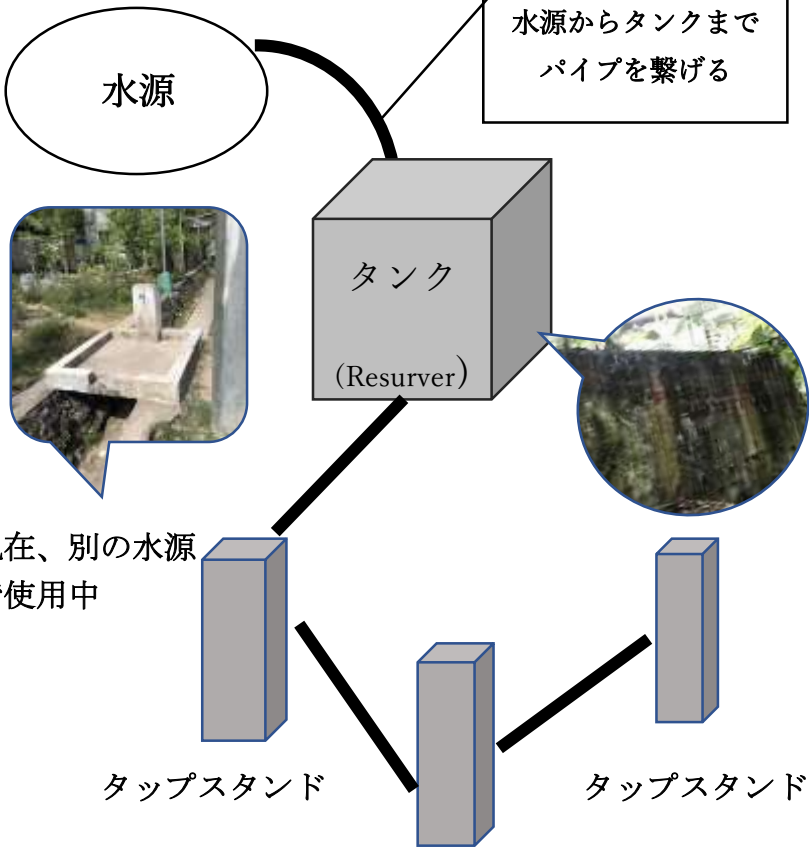
Survey 候補地の決定経緯

Survey の初日に市長に会いに行き、市長から問題を抱えている集落の情報を得る予定だったが、市長が不在であった。そのため、市長の秘書から得た情報と現地のエンジニア（LokLok さん）の判断で、BRGY STA.ROSA（サンタローサ村）、BRGY TUGUS（トゥーガス村）、BRGYMANLAWAAN（マンラワン村）の3の地区で Survey を行うこととした。

1、BRGY STA.ROSA（サンタローサ村）での Survey

抱えている問題	<ul style="list-style-type: none">・生活用水（地下水をポンプで汲んでいる）は豊富であるが、飲み水（水源）は枯渇している。・現在、水源から各家にパイプを繋げているが、土地の高低差や水源から家までの距離によって、水を得ることができる家とできない家が生じている。・パイプが水源から繋がっている家と繋がっていない家があり、家々で格差が生じている。・今ある水源の水は約 10 年しかもたないといわれている。
想定されるワーク	水道設備の敷設工事（詳細は後述）
メリット	<ul style="list-style-type: none">・この村の村長や村役人は我々 FIWC の活動に非常に協力的であるため、ワークや日本人の滞在に対して十分なサポートが受けられる。・日本人の滞在場所が綺麗である・新たに公共の蛇口を作ることによって、全ての家が飲料水を得ることができ、格差を是正することができる。・この村は他の村と比べても飲み水がさらに不足しており、深刻性が大きいので、私達がワークを行うことによる利益が大きい。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・今ある水源の水は約 10 年後にはつきている可能性がある。・パイプを新しく家に繋げることはないため、今現在繋がれている家には直接水が届くが、その他の家庭では水を注ぎに行く必要があり、その差は是正することができない。

2、BRGYTUGUS（トゥーガス村）での Survey

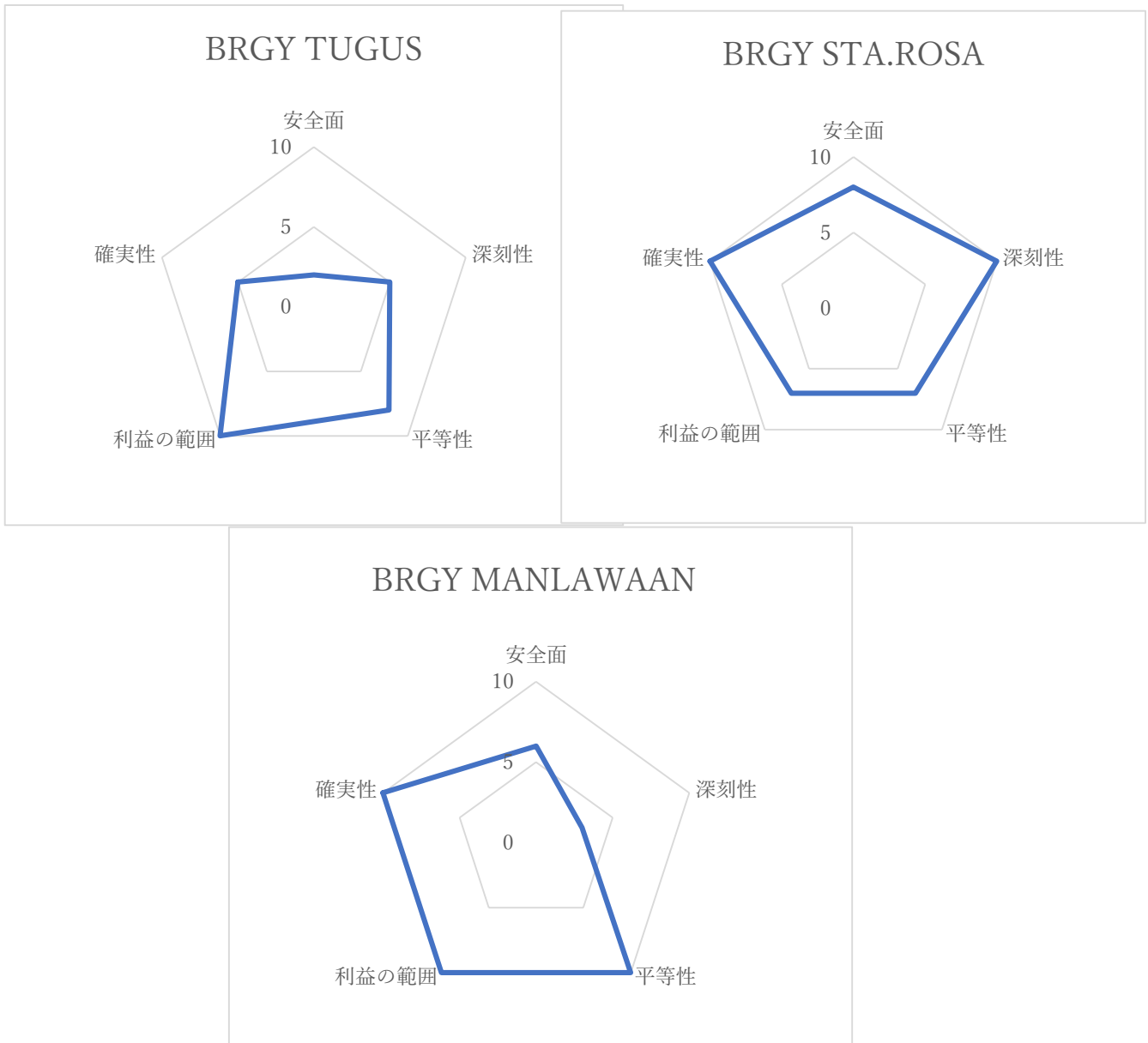
<p>抱えている問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時折、水はでるが、生活用水と飲み水共に不足している。 ・財政が赤字である。
<p>想定されるワーク</p>	<p>水道設備の敷設工事</p>  <p>水源</p> <p>水源からタンクまでパイプを繋げる</p> <p>タンク (Resurver)</p> <p>現在、別の水源で使用</p> <p>タップスタンド</p> <p>タップスタンド</p> <p>タンクからタップスタンド、タップスタンドからタップスタンドまで繋がっているパイプが壊れている場合、新しいパイプに変える。 (実際にはタップスタンドは7台あるが、スペース上省略)</p>
<p>メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部にある水源の水量は十分であるため、確実に水不足問題を改善することができる。 ・今後しばらく水不足の状態になることはない。
<p>デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財政が赤字であるため、村が確実にワークの資金を用意できるか不明である。 ・Survey をしている途中にキャンパーが水源の近くで滑って転倒してしまったため、日本人がワークをする上での安全性が欠ける。

3、BRGYMANLAWAAN (マンラワアン村) での Survey

<p>抱えている問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲み水はあるが、飲み水で生活用水を補っているため、水が全体的に不足している。 ・ 村の地域によって、水がある場所と不足している場所がある。 ・ 水はでているが少ない。
<p>想定されるワーク</p>	<p>水道設備の敷設工事</p> <p>現在繋がっているパイプが壊れている場合は修理する</p> <p>実際にはタップポイントは4つあるが、スペース上省略</p> <p>タップスタンドとタップスタンドを繋ぐパイプが壊れている場合は修理する</p>
<p>メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山間部にある水源の水量は十分であるため、確実に水不足問題を改善することができる。 ・ 今後しばらく水不足の状態になることはない。 ・ 日本人が行うワークとして、パイプを繋げる作業であり、比較的簡単である。
<p>デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲み水は少量だが、出ているため、ほかの村に比べて問題の深刻性に欠ける。

今回の Survey は上記した 3つの BRGY で行った。その Survey とその後の MTG の結果から今回のワークは BRGY STA.ROSA で行うことを決定した。なおワーク地を決定するにあたり、「確実性」「深刻性」「利益の範囲」「平等性」「安全面」の 5つの観点の評価した。(下のグラフを参照)
 どの村も様々な面からみて、同等に問題を抱えていた。今回はワーク地として選ぶことは出来なかったが、いつかこの 2つの村でもワークをしてほしいと切に願う。

<各 BRGY の評価詳細>



〈プロジェクト地決定の判断に用いた5つの観点のそれぞれ定量的な指標について〉

「深刻性」

・ Starosa (以下 s) : 10 点

→3つの村の中で、1番飲み水が出ていない。雨が降った翌日は水が出るが、乾季の時期（雨が降らない季節）はほとんど出ないと村人が言っていた。また、Survey中に豊富な水量をもつ水源を見つけることができなかった。また現在、水源から複数の家にパイプが繋がっているが、繋がっていない家では飲んではいけぬ地下水を飲料水として利用し、死んだ子どももいるという話を聞いた。

・ Tugas(以下 t) : 5 点

→この村は、地下水を生活用水にも使っていた。午後には飲み水がでなくなるが、午前中だとでていた。また Survey中に豊富な水源を見つけた。

・ Manlawaan(以下 m) : 2 点

→この村は、飲み水を生活用水にも使っていた。少量だが水が1日中でていた。また、Survey中に豊富な水源を発見した。

Surveyの結果、蛇口をひねっても水でない村 (Sta.rosa) と少量だが水が出る村 (Tugas . Manlawaan) に分類した。Sta.rosa村は他の2つの村と比べて、雨が降らない限り水がでない現状に私たちは高い深刻性を感じた。

「安全面」

・ s : 10 点

→豊富な地下水（生活用水）があり、日本人が1か月滞在する上で治安面、滞在面ともに良い。またワークを行う場所での怪我をする確実が比較的低い。

・ t : 2 点

→日本人が滞在する上で治安面は心配ないが、街灯の整備がなされていないなど日本人の滞在が難しい。また Survey中に滑って転んだキャンパーがおり、ワークを行う上で怪我をする可能性がある。

・ m : 6 点

→治安面は心配ないが、日本人20人が滞在するスペースがない。また、ワーク地までに竹の橋などが複数あり、この上をセメントなど重いものを持ち運ぶとなると日本人のみならず、現地の村人の方々もワーク中に怪我をする可能性が低い。

「利益の範囲」

・ s : 5 点

→ワークを完成しても水が劇的に増えることはないが飲み水を飲むことができる人数は増える。しかし、この水源は10年しか持たないといわれているため、時間での利益の範囲は、とても小さくなる。

・ t.m : 10 点

→ワークを完成すると水量は大幅に増え、また使う人も多い。また、この二つの村は先述の通り、豊富な水源があり 50 年以上持つと考えられ、この 50 年という膨大な期間の間、水問題に取り組む必要がなく、ほかのインフラ整備に取り組むという将来的な展望が期待できる。

人数による利益の範囲はどの村も等しい状態であったため、この項目では水源の水量に重点を置いて考えた。

「平等性」

・ s : 5 点

→水源から各家々にパイプが繋がっているため、パイプが繋がっていない家との平等性が欠ける。このため現状としては 5 点であると判断したが、私達はこの点に着目し、私達が飲み水のでるポンプを作るワークを行うことでこの差を是正できると考えている。

・ t : 8 点

→水源の水をすべてタップスタンドに繋げるため、平等に村人が水を得ることができる。しかし、プライベートでパイプを繋げている人はウォーターメーターを付けることになり、水を利用するのにお金を払う人と払わない人が生まれる点を考慮し 8 点と判断した。

・ m : 10 点

→水源の水をタップスタンドに繋げるため、平等に村人は水を得ることができる。

我々が Starosa 村でワークを行っても、水源の水が家から出る家と出ない家があるという今ある不平等を平等に変えることはできない。これはとても悔しいことである。しかし、水源から家までパイプが繋がっている家の中でも、水源から遠い家は水源から近い家が水を多く使っているため、水が届かない状態になっている。このようにこの村では平等性が大きく欠けていた。後の現状に対し、貯水タンクからパイプを 3 本繋げることにより、水が通るルートを増やし、水源から遠い家でも水が出るようにする。そうすることによって今ある不平等を 1 つ解消できると考えた。

「確実性」

・ s : 10 点

→ワークの予算面、完成するための日程面ともに良い。

・ t : 5 点

→村の財政が赤字であるため、予算面で確実性が欠ける。

・ m : 10 点

→ワークの予算面、完成するための日程面ともに良い。

5. 2019 年度春ワーク内容

ワーク概要

場所：フィリピン共和国レイテ州
タバongo市サンタローサ村
内容：水道設備の改善
期間：約 20 日間
予算：291000P (約 60 万円)



ワークの目的

Survey 報告でも述べたがこの BRGY STA.ROSA は、水道設備に大きな問題を抱えている。雨が降る季節（11 月～12 月）になると飲み水の量は増えるが、日本のように、いつでもどこでも飲み水を手に入れることができるのではない。雨が降らない季節（7 月～8 月）になると飲み水はわずかな量になってしまう。飲み水の増える季節、少ない季節、とどの季節でも、村にある水道設備では村人は午前中の限られた時間にしか水を手にいれることができない。（午後になると水が出なくなることが多い）この問題を解決するために歴代の村長やカラヒと呼ばれるプロジェクトチームは、幾度となく水道設備のプロジェクトを行ってきた。しかし、そのプロジェクトで使った水源も現在では、ほとんどつきている状態である。そのために未だにこの村の水道設備は大きな問題を抱えているのである。

今回、自分たちがこの村に参入するメリットとして、フィリピンの政党や日本の政府組織とは無縁という立場をとる自分たちが村の水道設備を改善し、この村で使える水道設備の 1 つとして整備し直すことで多くの村人が使用し、生活水準をより高めることができるといったことが挙げられる。

そのため今回、自分たちは水道設備を完成させるだけでなくその後の村人が自分たちの手で水道設備を管理し、改善していく。つまりは村人が自立していくためのワークを目指していく。

今回のプロジェクトによる受益者数

サンタローサ村には 4 つの地区があり、私達が重点的にプロジェクトをおこなう地区にはおよそ 150 世帯の家族が暮らしている。今現在パイプが家に繋がっていると繋がっていない家庭がある。繋がっている世帯数は 58 世帯あり、その他の世帯との格差が生じている。このあとの文章でも述べるが、そのため私たちは、まず飲み水が通っているパイプに公共の蛇口を取り付け、また生活用水の面では村が海の近くにあり、地下水が豊富にあるため公共のポンプを設置することで格差を是正する。また、繋がっている世帯すべてにメーターを設置し、利用できる水の量を制限する。今回のプロジェクトではこの地区で暮らす 150 世帯が主な受益者になる。しかし、今回のプロジェクトを行うことにより 10 年間この地区では水問題を抱えることがないため、村全体としてはほかの地区の水問題やインフラ整備に着手することができ、将来的には村全体の世帯に、利益が期待できる。

ワーク内容

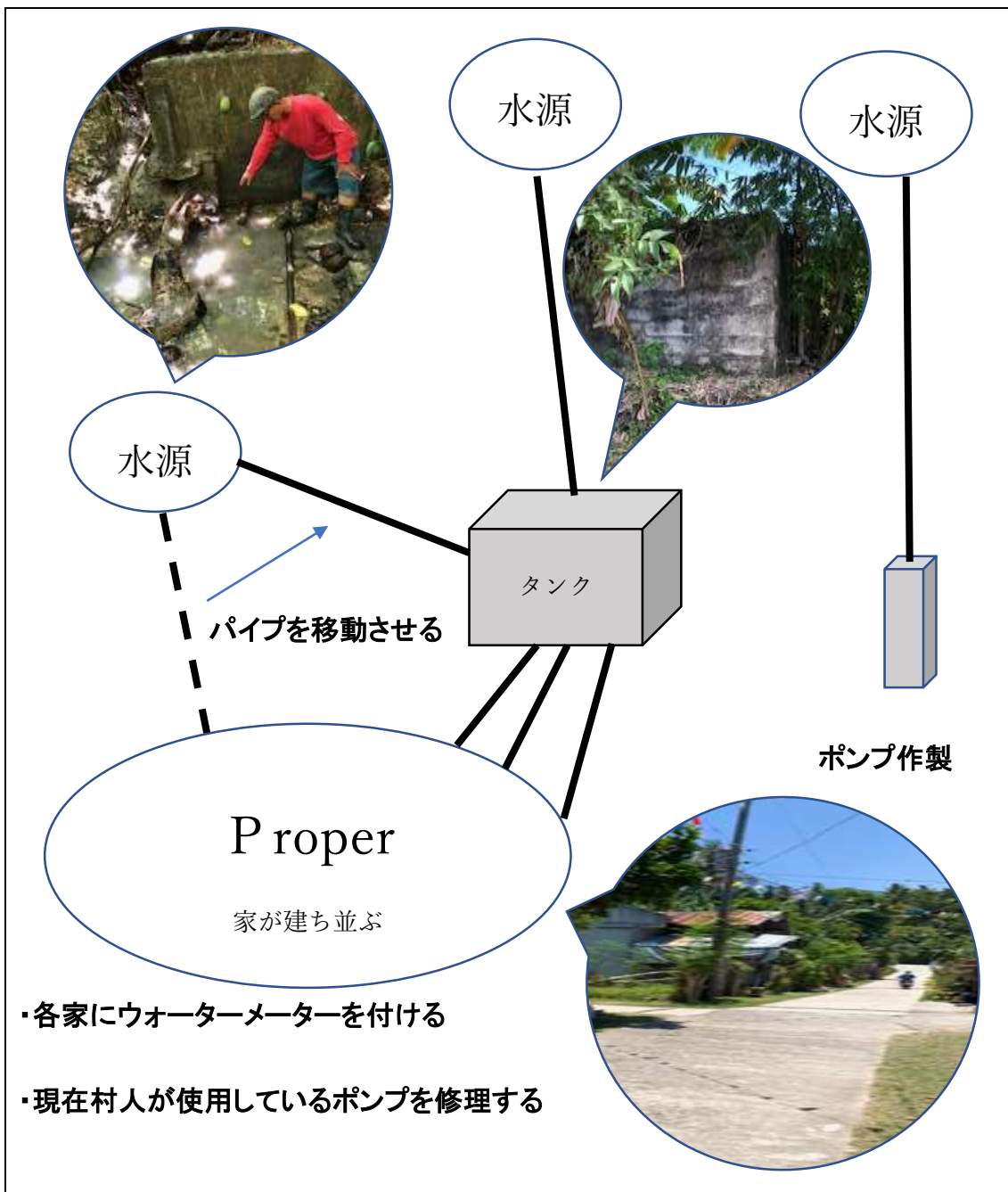
自分たちがワークを行う BRGY STA. ROSA は一カ所に家が密集している。そして、水源から家々までの距離は遠いため、ワークを行う範囲は広大になることが予想される。

【主なワーク内容】

Stage I 水源の改善とパイプラインの再編成。

Stage II タンクから各所への接続

Stage III ポンプの修理と作製、各家へウォーターメーターの設置



各 Stage の詳細

<Stage I 水源の改善とパイプラインの再編成>

この村では水源として湧き水が利用され、湧き水をタンクに溜め、パイプで家々に繋げている。しかし現在、タンクから水が漏れており、十分に村人が飲み水を得ることができていない状態になっている。そのため、まず水源である湧き水の改善に取り組む。

- ・周辺の漏れている湧き水を集めるため、コンクリートで包囲する

また、今回のワークの最終目的は村人が時期、天候に関わらず良質な水を入手できるようになることである。そのためには村の中心部の近くに、水を貯水するためのタンクが不可欠である。そのために、各家へと繋がるパイプを現在も使われている貯水タンク（村の中心部の近くに設置されている）に繋げ、貯水量を増やす。

- ・パイプが壊れている場合は新しいパイプと交換する。

<Stage II タンクから各所への接続>

現在、各家にパイプが繋がっているが、このパイプは一本道で、パイプが家に近づくにつれて分枝されている。そのため、枝分かれしたパイプが家に近い場所ほど水を使うことができているが、遠い家は十分に水を得られていないことが今回の Survey でわかった。そのため、貯水タンクからパイプを新たに2本繋げ、分岐を増やすことにより、この格差の改善に取り組む。また、現在のパイプの直径では十分な水圧が確保できていないため、より直径の大きいパイプを繋げることでその点も改善する。

今回、自分たちがワークを行っても、約10年しか安定した飲み水を得ることができないと推測されている。しかし、私達は現時点での水の量について重点を置き、「10年間も」水を得ることができると考えた。この限りある水源をより長く使えるように、タンクを午前6時に開けて、午後10時には閉め、貯水するという規則性をつくることにした。

- ・貯水タンクの破損箇所の点検及び修繕を行う
- ・貯水タンクとパイプを繋げる
- ・適宜パイプの太さを変え、水圧を確保する

<Stage III ポンプの修理と作製、各家へウォーターメーターの設置>

現在、自分たちが滞在する balan g ai hall（公民館）の近くにポンプが3台ある。このポンプを使って、村人は生活用水を得ている。このポンプが老朽化しているため、修理を行い、より長く利用できるように改善する。また、新たにポンプをハイウェイ沿い（大通り沿い）に作り、多くの人が今よりさらに水を得ることができるようにする。そして、ウォーターメーターを各家に繋げることにより、水の浪費を防ぐ。

指摘として、この対策をとると新たにメーターによって集金される世帯と公共の設備により水を無料で使う世帯との不公平が生じるとの意見があった。しかし、メーターでの集金は過度な利用に対して利用料金を高くし、一般的な量の利用であつたらごくわずかしかなかからないという制度のもと行われるため、過度な利用への対処として設定するものである。

2019 年春ワーク予算

	材料	数	料金 p : ペソ (円)
BRGY	GI パイプ (2 インチ)	10 本	20000P
	プラスチックパイプ (1.25 インチ)	4 ロール	28000P
	プラスチックパイプ (1 インチ)	3 ロール	12000P
	JETMATIC PUMP	5 ピース	15000P
合計			99000P (約20万)

	材料	数	料金 P : ペソ (円)
FIWC	GI パイプ (1.5 インチ)	6 本	90000P
	Tetloon	50 ピース	15000P
	Pipe wrench	30 ピース	15000P
	コンクリート・ペンキ代 (モニュメント代)		2000p
	現地エンジニアの感謝費	2 人	20000P
合計			142000P (約30万円)

	材料	数	料金 P : ペソ (円)
市	ウォーターメーター	58 個	50000P (約10万円)
合計			50000P (約10万円)

6. Evaluation

【evaluation とは】

前年度のワーク地に再訪し、前回行ったワークの現状と日本人の滞在についてインタビューすることによる事後評価。
今回は前年度のキャンプ地であるヒマルコ村で行った。

○2018 年度春ワーク

(概要)

- ・ 場所：フィリピン共和国レイテ州タバンゴ市ヒマルコ村
- ・ 内容：water system
- ・ 期間：2018/02/27-03 /27

○Evaluation 方法

- 1.水道設備で待機し、人々にインタビュー
- 2.プロパーの家々を一軒一軒回り、インタビュー



1.水道設備でインタビュー

【ワークについて】

- | | good | bad |
|--|------|-----|
| 1.Are you using the water system?(in English) ①20 ②1 ③0 ④6 | | |
| Gigamit niyo ba ang tubig? (in Tagalog) | | |
| Gingagamit na niyo an tubig(water system)? (in Bisaya) | | |
| (水道設備を使っていますか?) | | |
| 2.Did any inconvenient happen because of the system? ①2 ②4 ③0 ④6 | | |
| May mga abala bang nangyari dahil sa tubig? | | |
| Nakaka abala ba nga nahitabo tungod sa tubig? | | |
| (水道設備に関して何か困ったことが起こりましたか?) | | |
| (opinions: few water/汚水やごみが時々出てくる/二か月間給料が払われていない) | | |

【日本人の滞在について】

1. Did you enjoy our stay? Please give us some opinions. ①13 ②0 ③0 ④0
- Nag enjoy ba kayo sa aming pag tira?
- Nalipay ba mo sa among pag puyo sa inyong baranggay?
- (日本人の滞を楽しんでもらえましたか? 意見をお願いします)
- (opinions:私達のことを家族のように接してくれて幸せだった)

2.Is there any FIWC member's behavior annoyed you? ①11 ②0 ③0 ④2

May mga FIWC ba na myembro(member) na kinaiinisan niyo?

May FIWC ba nga myembro(member) nga dili ninyo ayonan?

(私達 FIWC の行動で迷惑だったことはありますか?)

(opinions:特になし)

3.What did you enjoy the best? ①5 ②0 ③0 ④0

Ano ang pinaka gusto niyong nangyari?

Unsa ang inyo pinaka ganahan nga nahitabo?

(何が一番楽しかったですか?)

(opinions:ビーチパーティー)

4.What did you think about our homestay? ①7 ②0 ③0 ④0

Ano sa tingin niyo ang aming pagtira sa bawat bahay sa inyong baranggay(home stay)

Para sa inyo unsa man ang among pag puyo sa balay sa inyong baranggay o home stay?

(ホームステイはどうでしたか?)

5.Was it hard to cook for us? ①0 ②0 ③0 ④7

Mahirap bang mag luto para sa amin?

Nalisuran ba mo sa pag sige ug luto sa amo?

(私達のためにご飯を作るのは大変でしたか?)

【総括】

家々を歩いて回りインタビューをしたが、英語を話すことのできない人々が多いため、すべての質問に全員に答えてもらうのは難しかったが、シートにタガログ語とビサヤ語でも質問を書いていたので、そこをカバーできたので良かった。また、Water mater について agreement を取っていたが、市から予算を返金されていなかったため、徹底できていなかった。そのため、オーナーが見境なく水を利用し、近くの citio であるハモラウンには水が通っていない。しかし、今年はそのための予算は組んでいないこともあり、カピタンには water meter のお金は払うつもりはないという自分たちの考えを伝えた。あとは balan-gai の意向に任せるつもりだったが mayor に会ったところ、ムニシパルから先日返金されたということなので、今後新たな水源からパイプをつなげ、ハモラウンの水不足は改善される予定である。

7. イベント

<主な仕事>

Japanese Festival(とは、滞在地の村人を集めて行うイベント)の企画、準備、司会進行

日時：2018年9月1日(土) 14:00~

内容：自己紹介・ゲーム・ダンス・日本語教室・日本食試食会



1. 自己紹介

予定では自己紹介を行う予定はなかったが、村人の強い勧めで行うことになった。

余っていた画用紙に名前を書いて軽い挨拶を一人ずつ行った。

2. ゲーム

ストップダンスと椅子取りゲームをフィリピン人と日本人で行った。ストップダンスは現地の人がルールを理解していたためスムーズに行えた。椅子取りゲームは最初、ルール説明がうまく伝わらずごたごたになってしまった。ルールの原稿を簡単な英語で考えておくべきだった。皆がルールを理解できた後からは皆で盛り上がり行うことが出来た。

3. ダンス

この日に向けて皆で練習していた“恋するフォーチュンクッキー”を踊った。日本人が躍る配置につくと村人たちも整列して一緒に踊りだしたことは予想外だったけど楽しんでもらえたようだった。後に村人との交流のツールにもなるのでよかった。

4. 日本語教室

「わからない」や「水」など基本的な日本語を教えた。皆が教える前から知っていた言葉が数語あったのもあって、しっかり発音してくれた。その後の日常生活で村人が教えた言葉を使ってくれたりもした。



5. 日本食試食会

今回は焼きそばとお団子を作った。焼きそばは主に子供に、お団子は大人に配った。どうやって分配するか考えていなかったため少し時間がかかってしまった。最終的に多くの人に配れたのでそこはよかったと思う。味の評価は、焼きそばは本音はわからないがおいしいと言ってくれた。お団子は微妙だったから次は違う料理に挑戦するのが良さそう。

<全体の反省>

まず、朝から日本食の準備をするのはイベント係でないキャンパー達が積極的に協力してくれたおかげでスムーズに進んだ。食事を作るときの衛生面で、ビニール手袋の装着や生ものの食材を避けたほうが良いという反省が上がった。また、調理しやすい食材を選ぶことを心掛けたほうが良いかもしれない。イベント全体の進行では、プログラムがなかったためメリハリのない進行になってしまった。また、女子は浴衣、男子は甚平を着ることにしていたが、女子の浴衣をいつ着るか正確に決めておらず、手間が掛かり開始時間が遅くなってしまった。ゲームに関してはサックレースとストップダンスをする予定だったが、村人があるといっていたサックが無いといわれて急遽椅子取りゲームをすることになった。雨天時の場合を考えて他のゲームを考えていたため椅子取りゲームがスムーズに行えたことは良かった点である。今回、村人の勧めで急遽自己紹介をすることになったが、村人に名前を覚えてもらえるきっかけにもなるので次回から取り入れても良さそうである。また、開始時間を一時から二時に当日変更して、村人に午前中開始時間を伝えに行ったためドタバタになってしまったが結果として村人が昼食をとり終わり、皿洗いなどもおえていたためたくさんの方が集まってくれた。当日になってドタバタするのをなくすためにタイムスケジュールを細かく決めておくべきだった。



8. 写真特集



サンタローサ



9. 感想



げっしー

二回目のフィリピンは、前回とは全く違う景色に見えた。何もかも新鮮だった去年の本キャンプに対して、今回の下見キャンプでのヒマルコの滞在は二度目なので慣れというか、フィリピンがいつもの生活の延長であるように感じられ、そういう意味では村人になれたのではないかと満足している。その反面、多くの場面で少し既視感があり、素直に楽しいとは言えなかったのも事実である。また、立ち位置という面にも苦労した。去年の本キャンプを通してリーダーという役職で次のキャンプに携わりたいと思い、リーダーに立候補したが、もともと私は人の上に立つという経験がなく、キャンプ中どうふるまえばみんながついてきてくれるのだろうか、どうしたら嫌われずに注意できるのだろうかという変なプレッシャーに押しつぶされそうだった。その重圧に耐えきれずに、結構な頻度できつい言葉

を使ったような気がする。しかし、リーダーという立ち位置を通して見つけたものもある。それはまず、意外と自分は自分の意見を主張しないと気が済まないという性格だということである。それは、みんなの意見をまとめられていないという短所のように聞こえるが、自分が納得いくまで次の内容に進まないほど頑固な点には自分でも驚いた。また、向こうのエンジニアさんと直接話す機会が多くあり、どうしたら多くの村人が利用できる設備が作れるだろうかと試行錯誤する自分を見て、意外と村人に対して想いを持っているのだなと再確認することができた。村人にはよく「何しに来たの？」と聞かれたが、私はいつもこう答えていた。あなたを笑顔にしに来たのだと。素直にそう答えられるようになったのも、昔の自分と比べると大きな変化だ。

こんなに、マイナスな面を書いているが、フィリピンに行ったことを後悔はしていない。純粹に楽しかったからである。「ボランティアが楽しいってなんか変じゃない？」と、良く友達に言われるが、私も参加する前はそう思っていた。しかし、今はちゃんと答えられる。私たちは、国際協力をしに行くという思いでこの活動に参加しているわけではない。ただ単に、村人たちに会いたいという気持ちでフィリピンに行くのである。そして、村人と一緒に何かを作っていくことが、無意識に村人のためになって、国際協力になっているのである。この活動は、こうやって続いていくのだろう。今読んでいるそのあなたは、綺麗事だと思っているかもしれない。しかし、だまされたと思ってきてほしい。あなたのその一歩を私たちと一緒に歩ませてほしい。

あかり

「またフィリピンいくの？」下見キャンプに行く前、いろんな人に何回も言われた。仲のいい友達からは「フィリピン女」と、新たなニックネームで呼ばれるようになった。(笑) 私は1年生の春休みにフィリピンキャンプに初めて参加した。薄っぺらいように見えるが、過ごした1か月が本当に楽しかった。日本の生活とはかけ離れた生活を送り、村の子どもと朝から晩まで遊んだり、お話をしたりして過ごした日々にもまた戻りたい、ワークをもっと深く知りたい、自分たちの手で1から作ってみたいと思い、今回の下見キャンプに参加した。国内で何回もミーティングを重ね、春に経験した楽しさを求めて、フィリピンへ入国。今回は楽しいだけでなく、戸惑いもいっぱいあった。前回のワーク地で、春に行ったワークの評価や調査、そして survey を行い、あっという間に2週間の滞在が終わり、自分たちが決めた新たなワーク地での生活が始まった。新たな村の人たちは滞在して数日、とても冷たかった。笑顔であいさつをしても返してくれなかったり、真顔で手を挙げるだけが多く、あれ？村が違うだけでこんなにも日本人に対して閉鎖的なのか？と、とてもショックが大きかった。そして、最初は村役人と一緒に行動することが多く、その人たちとばかり仲良くなっていて、このまま村人と仲良くできなかつたらどうしようと不安な日々もあった。だが、逆の立場になって考えてみると、村人の気持ちはわかる。自分の地域に知らない違う国の人たちが生活しているとなると自分なら必ず不信感を持つと思う。しかし、毎日あいさつを続けていたら、だんだん笑顔で返してくれるようになり、とても嬉しかった。そして、村の青年たちと日本人と一緒にバスケットをしていたら、次の日から青年だけでなく、大人たちからも「あかり～」と名前を呼んでくれたり、バスケットしろ！って言われるようになり、一気に距離が縮んだように感じた。村人とバスケットをしてよかったなど、切実に思うし、バスケットに感謝してる。本キャンプではもっと村人と仲良くなって、一緒にワークができたらいいなと来年の春休みがとても楽しみである。今回のキャンプは楽しいことばかりではなく、心が折れそうになったりすることもあったが、とてもいい経験ができた。次の本キャンプで自分は3回目のフィリピンになる。多いなと自分でもびっくりする。次回もいい思い出や経験が作りたい。



みゆ

ヒマルコに着き、春のキャンプの時と変わらず元気よく balan gay hall の前で遊ぶ子供たちを見て、またここに帰ってこれたんだという喜びとともになぜだかすごくほっとしたのを覚えている。そしてこれからまたフィリピンでの3週間の生活が始まるんだというワクワクと、これから始まる私たち8人にとって初めての下見キャンプを想像し、期待や不安など様々な思いが頭の中をめぐっていた。私が今回下見キャンプから参加しようと思ったのは、やはりフィリピンでの生活が楽しくて、フィリピン

ンが大好きだったから。そしてもう一つは春に一度本キャンプに参加したあと、自分ももっとキャンプについて知りたい、もっと積極的に参加して、今年のキャンプを一から作っていくメンバーになりたいと思ったからだ。春の本キャンプは下見から参加している先輩メンバーについていくばかりで、ワークにしても生活面にしても知らないことが多かった。それでも何となくフィリピンに滞在し、フィリピンでの生活や村人との交流はとても楽しかったが、なにかキャンプに役に立っているかと言われればそうではなかったし、何の責任感ももっていないただのメンバーにすぎなかった。だから今回はキャンプを作っていく下見メンバーとして責任を持って1年間活動しようと参加を決意した。



初めての survey、初めて行く村、初めてのロクロクさん MTG。すべてが新鮮でわからないことも多かったけれど、自分がそこに参加できていることが嬉しかったし、メンバー8人で協力し、手探りしながら乗り切ることができた。以前下見キャンプに参加した先輩からちらっとは聞いていたが、survey 中は、本当に様々な思いに悩まされた。本当に一つの村に決めないといけいいのか？と考えてしまったりもした。というのも、今回下見をした3つの村すべてで困っていることは water system についてだった。水は生きるためには必要不可欠なものであり、どの村でも困っているのは自分たち自身の目で実際に見て、村人からもインタビューを通して聞いていたからだ。そのため村決定の MTG は、キャンパーの意見が交錯し、予定より多くの時間をかけた。何を基準に考えればいいのか？日本での事前 MTG ではかなりの時間を割いて考えてきたのだが、いざ決定するとなると日本で考えていたようにうまくはいかず、本当に難しかった。それでも最終的には、深刻性、利益の範囲、滞在中の安全面など様々なことを考慮したうえで、サンタローサ村にすることを全員一致で決定することができた。

村が決定したあと、survey をさせてもらったすべての村に挨拶に行ったのだが、ワーク地に決定できなかった2つの村を訪れたときはとても心が苦しかった。どの村でも初めて会った私たちを歓迎し、昼食やおやつでおもてなししてくださった。遠く足場の悪い水源まで一緒についてきてくださり、私たちが村人にインタビューをしてまわる姿を見て、この村でワークをしてくれるのか？という期待もあっただろう。それでもワーク地に決定できなかったことを説明し、謝ると "Okra! 謝ることないよ またいつでも戻っておいで" と変わらない笑顔で言うてくださった。この時私は、この2つの村をワーク地に決定できなかった分、決定したサンタローサでのキャンプ・ワークを絶対成功させなければ！心からそう思った。

今年度のキャンプ地、サンタローサ村。海に面していて、ブコ(ココナッツ)の木がいっぱいはえている、まさに南国といった美しい村だ。また、タバング市の中で最も小さい村であるそうだが、村人たちがパワフルでとても明るい。お母さんやお父さんのように面倒を見てくれて、毎日おいしいごはんを作ってくれた。子供たちは元気で可愛く、ラバ(洗濯)をしていると手伝ってくれたり、体調を崩したときは心配して代わりに荷物を運んでくれたり、優しい子たちばかり。滞在はたった1週間だったが、サンタローサ村も村人も大好きになった。そんな大好きな村、村人たちのために次の本キャンプでのワークを絶対に

成功させたい。そして村人たちと喜びを分かち合いたい。まだ帰ってきて 3 週間だが、早くサンタローサに帰りたい！次の本キャンプが楽しみでならない。

長くなってしまったし、言いたいことが多すぎたのでまとまらなかったが、キリがないのでとりあえず終わろうと思う。最後に下見キャンパーのみんな。8人全員が初めての下見キャンプで、本当に自分たちで下見キャンプを成功させることができるのか、最初は正直不安が大きかった。事前 MTG でもうまくいかないことが多かったり、いっぱい意見がぶつかったり。でもこの 3 週間一緒にいろんなことを経験して、みんなで乗り越えて行って、本当に楽しかったし、信頼できる最高の仲間ができたようで嬉しかった。感謝の気持ちでいっぱいだよ、ありがとう！本キャンプ絶対成功させようね！これからもよろしく！！ 大好きだよ！

さき

今回わたしは 2 回目のフィリピンキャンプに参加した。なぜ私がこの下見キャンプに参加しようと思ったのか。ひとつはもちろん、去年の本キャンプが楽しかったから。村人や子供たちがとても暖かくてまたフィリピンに戻りたいと強く感じた。もう一つは、去年のキャンプは先輩たちに頼ってばかりいたから自分たちの手でキャンプを作り上げたい！と思ったから。言われるがままにただ坦々とこなすばかりだった。そんなこんなで今回キャンプに参加することを決めた。実際、下見キャンプの MTG を進めていくとそう簡単にうまくはいかず、困難の連続だった。みんなの意見がぶつかることも多々あり、でもそのたびにみんなで夜遅くまで話し合いを重ねたり、先輩方にアドバイスを頂いたりしながら乗り越えてこれたのではないかと思う。



今回 survey を行った村はサンタローサ、トゥーガス、マンラアワンの 3 つである。どの村もやはり water system の問題を抱えていた。当然ワークできるのは、一つの村に絞られる…。村決定はほんとに複雑な思いがあった。一つの村に絞ったら残りの二つは見捨てたことになるのではないか、ただ期待させて終わるのか、そんな思いもありながら…。しかしみんなで何回も何回も話し合い“深刻性”に焦点を置いて考えた。サンタローサは生活用水を飲み水として利用している家庭もあって、村人への調査をしているときに目の前で生活用水を water server に移しているのを見た。聞いてみると「今まで何回もおなかを壊したんだ、」と答える人が何人もいた。生きていくためには水は必ず必要だ。これだけではないが、みんなで悩んだ末、今回の春のワーク地はサンタローサに決定した。また、村の様子はわたしは去年のワーク地であるヒマルコ村のイメージでフィリピン人は陽気でフレンドリーというのが頭の中にあった。ところが、実際新しい村を訪れると、何しにきたのか？と言わんばかりにそっけない素振りや受け答えももちろんあった。しかしそれが当然なこと。ここが本キャンプと下見キャンプの大きな違いだ。一から人間関係、信頼関係を自分たちで築き上げる。言語も宗教も違うけど国境を越えて家族の

ように思ってくれて親ってくれる、そんな関係を築きたい。言葉がわからなくても身振り、手振り、表情などで何かしら通じ合えるものがきっとある。少し村を散歩するだけでもたくさんの子供たちが集まってきてくれて、新しい発見や出会い、気づきがたくさんある。それから徐々に村人から声をかけてきてくれるようになっていくのを肌で感じる事ができたときとても嬉しかった。でもやはりみんながみんなそうではない。わたしたちに警戒の目を向けている人は少なからずともいる。もっともっと FIWC のことを多くの人に知ってもらって村中人々に今回のワークに関心を持ってもらいたい。

今までフィリピンキャンプを築き上げてくれた先輩方のように自分たちも次の春のキャンプも成功させなければならない。集団生活、集団行動、キャンプを行う上で最も必要なこと。今度のキャンプはさらにキャンパーが増える。自分だけではない。自分のやるべきことはもちろん、ほかのキャンパーの指針になれるように頑張りたい。

最後に、一緒に行ってくれた下見メンバーの8人、未熟なわたしたちをサポートしてくれた先輩方、わたしの思いを組みとってキャンプに行かせてくれた両親に感謝でいっぱいです。(Salamat!! ありがとう!)



よっつー

フィリピンでの時間の経過は本当に早い。2回目のフィリピン、初めての下見キャンプ。今回、自分が参加した理由は、本キャンに参加してみても単純に楽しかったからというのと、フィリピンキャンプを一年と通してやり遂げたいと思ったからだ。

2回目のフィリピンなので、生活にはさほど困らなかつた。次に、現地の人々との交流。もちろんヒマルコの人々は初めてではないので、この前と変わらない、いや、もの前より近い距離感で接する事ができたと思う。ヒマルコの人たちとの交流は相変わらずとても楽しいものだった。しかし、サンタローサの人々とはなかなか打ち解けられなかつたように感じる。それが下見での唯一の心残りだ。2つの村を比べるのはあんまりしたくないけど本キャンでは、自分たちがヒマルコでした交流よりもより深い仲を築けたらいいなと思ってます。

下見キャンプの大きな目的である新たなキャンプ地の決定。1週間ちょっとかけて3つの村をサーベイした。すべての村で最優先されている問題はウォーターシステムだった。どこの村に行っても村人たちにとって、それは本当に必要なものであるのだと感じた。あっという間に、サーベイも終わり、キャンプ地を決定するとなった時に、自分は相当悩んだ。はっきりとこの村にしたいといえる理由がぱっと自分の中に出てこなかつたからだ。でも、自分の中であんなに考えて考えて、結論を出した。これがなんか下見っぽいなって勝手に感じてました。笑

そんなこんなで、下見も終わってしまったので、これからは本キャンに向けてしっかりと準備を進めていこうと思います。以上です。

にしー

初めてのフィリピン。率直な感想としては本当にFIWCに参加し、フィリピンキャンプに行けて良かった。大学生になってから一番充実していた日々だったかもしれない。私はこの経験を経て大きな一歩を踏みしめることができたように感じた。しかし、初めは3週間も日本とは全く違う環境に身を置くということもあり不安しかなかった。まず、なぜ自分がこの下見キャンプに行こうと思ったのかは、耶馬溪などで話を聞いたり、どうせ夏休みは暇だし、何かしたいという軽い思いから参加した。だが、MTGを重ねるにつれてみんなとの考えや思いの差を感じ、また余り仲良くなれていなかったのが正直、結構メンタルにきていた。だけど実際フィリピンに行くとそんな心配も吹き飛んだ。初日こそ現地のトイレやリーグ、バランガイホールでの睡眠には戸惑ったが2日目からは慣れてかなりフィリピンの環境に適應できたと思う。残りは子供と仲良くなれるかという心配だったが子供たちから来てくれてすぐに打ち解けることができ杞憂に終わった。下見キャンプを終えて振り返ってみると自分は今回、新キャンパーという立場に甘えていた。しかし、次回は自分が新キャンパーに説明する立場になるので、このキャンプで話し合ったこと経験したことをしっかり伝えなければならない。その責任感を持ち、楽しかっただけで終わる本キャンにはしたくないので成功に向けて努力していきたい。



みぎ

2回目のフィリピンキャンプが終わった。時の流れというのは非常に早く、またフィリピンに帰りたかったと思った前回の本キャンプ後から始まり、日本でのミーティング、そして今回の下見キャンプまでが、あっという間に過ぎていった。前回のキャンプは、先輩たちに引っ張ってもらい、ただただ楽しませてもらったキャンプだったが、今回は下見キャンパーにしか分からない大変なことや、苦勞というものを知った。ワークキャンプについて考えたり、助成金のことだったりキャンプにかける時間も多くなった。しかし下見キャン

プを終えてみてわかった。キャンプについて関わることのできる時間がどれだけ貴重なのかということ、そしてキャンプは楽しいということ。

ヒマルコ村に久しぶりに戻ってまず思ったのは、当たり前かもしれないが村の様子は以前とはまた変わっているなどということだ。その変化には、良い面がほとんどだが、悲しい面もあった。例えば、前回共に作り上げた Water System は、メンテナンスが行われておらず完成後のような水の供給はなされていなかったし、契約は守られていなかった。ただ変わらないもの、それは Friend という関係だと思う。私事だが、二十歳の誕生日をヒマルコ村で迎えた。キャンパーの皆、そしてヒマルコ村の友達からもサプライズをしてもらった。ケーキ、お手紙などを準備してくれたことに感動したし、何よりもそういった関係になれたことが嬉しかった。2 回目の滞在ということでより深く交流でき、楽しい思い出が作れた。前回のホームステイ先のナナイミミのように、また私に着せる洋服を用意してくれていた、第二の優しいお母さんの存在もいるので、いつかまた戻って来ようと思う。お世話になったヒマルコ村、感謝の気持ちでいっぱいだ。サラマツ!!

続いて下見キャンプの一番の目的、それはワーク地決定である。サーベイで大切なのは、ニーズを把握することだ。日本でのミーティング中は、想像がいまいちつかなかったが、現地で進めていくにつれて、どういうことをするのがサーベイなのかやっとわかった気がする。色んな地に行くことで、新たに学ぶことも多かった。今回は3つの村をサーベイしたが、どこも水問題を抱えていた。ロクロクさんがおっしゃっていたように、Water System のワークは大変であり、大切なワークである。私自身もフィリピンに行き、実際に生活することにより水の大切さを身をもって知ることができた。なので水問題を抱えている3つ村を比較して、1つに決めるのは正直難しかった。サンタローサ村に決定してからの滞在期間は、より多くの村人に話しかけることを心掛けていた。だんだんと気を許してくれているなど感じることができた時は、とても嬉しかった。陽気なおじさんたちとジョークを言い合いあったり、子どもと遊んだり等、楽しい生活を送れた。来年の春に、一緒にワークをするのが楽しみだ。

私たちには、ロクロクさんという非常に大きな存在がいる。前回のキャンプでも感じていたが、下見キャンプで一緒に過ごす時間が増えていくにつれて、日増しにロクロクさんの偉大さに気付くようになった。普段のロクロクさんは、私によく冗談を言って、笑わせてくれたり時には私を困惑させる面白い人である。ロクロクさんは、キャンプ中過去の先輩たちのキャンプ T シャツを着ているのだが、私はそれを見て大切にしてくれているロクロクさんのそういうところが素敵だなと思うとともに、フィリピンキャンプの歴史を感じ、自分たちも本キャンプを成功させて次に繋げたいという気持ちにもなる。下見キャンパーとしての責任感からなのだろうか。今回は、本キャンプへの気持ちが前回とは全然違う。とりあえず、これからしっかりと準備をすすめて、新たに加わる新キャンパーを引っ張っていけるようになりたい。下見キャンパーのみんな、本キャンにむけて一緒に頑張ろうね。村での楽しい生活を想像しながら (^ ^)

さお

私は平成最後!の夏にとっても貴重な体験をした。フィリピンから帰ってきて第一声にフィリピン帰りたい。っていうとは思ってなかった。でもほんとにずっといたいって思うくらい素敵な国で、素敵な人たちがたくさんいる。フィリピンと日本は話す言語も文化も全く違う。私は英語が流暢に喋れるわけじゃないし正確に聞き取れるわけでもない。けどフィリピン人とのコミュニケーションはとても楽しいと

感じる事が出来た。それはフィリピン人の性格にあると思う。フィリピン人は陽気でフレンドリーで本当に楽しい人たちばかりだ。毎日踊って歌って、冗談ばかり言い合ってフィリピン人になりたいって思うほど楽しい。

(笑) けどフィリピンに行く根本は貧困村でインフラ整備を行うことだから、もちろん楽しいことばかりではなかった。下見キャンプから行くというのはそんなに簡単なことではなくてミーティングを重ねていくうちに自分たちが行うことの重大さや影響力の大きさを感じてこんな私にできるのかなってずっと考えていた。初めてのキャンプであり初めてのフィリピンだったからミーティングの内容も想像でしか考えれなくて正直何も想像できなくてちんぷんかんぷんの時もあった。こんな脳みそ空っぽな私が下見キャンパーとしていっていいのかなって毎日

思ってたし、一年生一人だったからこのままなじめなかったらどうしようってフィリピンへ行くことに心配しかなかった。けど実際行ってみるとミーティングで想像してたことが現実になってああこのことか！ってなるのが嬉しかったし、キャンパーの皆は一個下の私が気を使わなくていいようになってたくさん話しかけてくれたし、敬語禁止とか言ってきて(一種のいじめ)楽しい毎日を送れた。(笑) トイレやお風呂も最初は、えって思ったけど次の日にはもう慣れてた気がする。個人的に全然苦じゃなかった。一番苦しかったのは来年のワーク地を決めることだった。今回は三つの村を調査したので二つの村を断って一つの村に決めないといけなかった。でもキャンプに参加してなかったらこんな思いで苦しむことなんてなかっただろうし、村人の立場になって真剣に考える時間も持てなかっただろうと思う。普段、何にも考えないで生きている私が日本で感じる幸せとは違う形の幸せを見つけられたり、日本の裕福さに気づけたり、とキャンプに参加していなかったら出会うことのなかった経験をたくさんすることが出来た。ほかの国、ほかの人に対してこんなにも考えさせられることがこのキャンプのいいところだと思う。そのような中で村人とたくさんコミュニケーションをとって、また帰りたいたいと思える、第二の故郷と呼べる場所が自分の中にできたことが本当に嬉しい。このキャンプに参加してよかったと本当に思う。最後に三週間を共に過ごした七人の皆さん、何にもわからない私をめんどくさがらず、たくさんのことを教えてくれて一緒にフィリピンに行ってくれてありがとうございました。春でもよろしくお願ひします。(^^)



Presented by FIWC 九州

PHILIPPINES
CAMP ★★ ★
2018-19 BRGY.
STA. ROSA

橋本尚樹 (九州大学 2年) : リーダー
高橋明里 (西南学院大学 2年) : ワークリーダー
坂本光希 (西南学院大学 2年) : SP、記録、保健
西川大輝 (西南学院大学 2年) : KP、記録
四元惇人 (西南学院大学 2年) : 会計
飯盛彩貴 (中村学園大学 2年) : 会計
松本美祐 (九州大学 2年) : イベント
永吉彩桜 (西南学院大学 1年) : イベント

Mail→ fiwcq@hotmail.com

Twitter→ @fiwckyuhu

Facebook→ FIWC Kyushu

HP→ <http://fiwckyushu.jimdo.com>



村人として過ごす 1 か月

あなたも非日常を

体験してみませんか

